

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4793400039		
法人名	株式会社スリーピース		
事業所名	グループホームとことん		
所在地	沖縄県島尻郡与那原町字板良敷161-5		
自己評価作成日	令和3年 2月 5日	評価結果市町村受理日	令和3年4月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=4793400039-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市上之屋1-18-15 アイワテラス2階		
訪問調査日	令和3年 2月 23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・利用者一人ひとりに合わせた適切なケアを行うため、職員が「個別介護計画書」を作成し、実施から評価までを行っている。今年度はコロナウィルスの影響によりわずかではあったが、屋外での活動を定期的に行い、楽しみながら「動く」事で身体機能低下防止を図り生活意欲の向上に努めている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>高台の住宅街の頂に立地し、眼下の海を一望できる景観に恵まれた環境である。玄関は解放され、玄関先にはベンチがあり、利用者・訪問者共にくつろげる開放的な環境を整備している。室内には、複数のソファや椅子が用意され、利用者は思い思いの場所で過ごしている。 くつろいだ環境を提供するとともに、利用者個々のニーズを丁寧を受け止め、その生活を中心としたケア(パーソンセンタードケア)を実践している。「とことん」というグループホームの名称は、利用者にとことん寄り添い、「いつまでも笑顔で」その人らしい生活が送れるように支援するという理念に基づいている。職員個々がその意義・理念を理解し、話し合い・勉強会を重ね「お一人様ツアー」を企画したり、コロナ禍においてもできることを工夫し、利用者の生活に寄り添うことに努めている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を基に「その人がいつまでも笑顔」で日々の生活を過ごす事が出来るよう、職員全員で考察し作成したスローガンも共に毎月1回の勉強会で再確認し、留意しながら実践に繋げている。	「いつまでも笑顔で」をキーワードとした理念が策定されている。グループホームの名称「とことん」には、とことん利用者を支援するという意味が込められている。開設時の思いを反映した理念をミーティングや話し合い時に職員間で確認し、スローガンを考察することにより、日々の実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	当ホームの立地は高台にあり、舗装されていない坂道などが多いことから徒歩範囲での地域との交流は多くない。だが町や区などの市場、またその人の馴染みのある場所などを特定し、社会参加へと繋げる事を努めていたが、今般のコロナウィルス感染予防のため社会参加等は自粛した。	隣接する、高齢者福祉施設と災害時の協力体制は整備している。自治会へ加入することにより、地域の認知度を広める工夫を行っている。又、隣接する畑の所有者が通行する際、声をかけあう等、交流を行っている。市場や利用者のなじみの場所等に外出支援を行ってきたが、コロナ禍の今年度は、自粛となった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の小学校などで認知症に関する勉強会や近隣にある専門学校からの実習生受入を行ない、認知症を理解して頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2か月に1回の運営推進会議を開催し、利用状況やご利用者の日々の生活状況、諸活動の様子、そこで頂いた意見を反映させ、施設全体のサービスの質向上へ繋げていたが、今年度はコロナウィルスの影響により書類での報告を行った。	運営推進会議について、コロナ禍の影響等により、開催困難となり、文書での報告となった。今後の開催について、出席可能な委員の開拓、議事録の充実を期待したい。	出席可能な運営推進委員の開拓、家族等の参加可能な開催方法について検討を行うことが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今年度はコロナウィルス感染予防の為、直接会うことを避け、電話やFAX、メールなどにて連携を図っていた。	町との連携については、運営推進会議での情報共有を行っている。今年度については、会議は文書報告となったため町との連携は、電話連絡やメールを活用している。町、地域包括支援センターと定期的な情報交換を実施している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	極力、身体拘束を行わない取り組みを行い研修等で全職員が理解している。玄関の施錠や言葉がけにも日々気を付けている。	事業所の運営規定に、身体拘束の禁止について定められている。身体拘束等の適正化のための対策を検討する委員会は、3か月に1回開催されている。「いつまでも笑顔で」という理念を実践する上で、身体拘束を行わない介護について、定期的に職員間で勉強会を行っている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待及び権利擁護について、3ヶ月に1回の身体拘束の研修に加え、毎月行われる勉強会の内容に盛り込まれることが多い。また介護職のストレスを溜め込まないようにコミュニケーションを取っている。	虐待を防止するために、全職員を対象とした定期的な勉強会を開催している。日々の介護について、虐待行為との関連について点検を行っている。職員間のコミュニケーションの活性化を重視し、管理者は休憩室の整備等、風通しの良い関係づくりを工夫している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について、深く学ぶ機会が多くなかったため、来年度の定期勉強会に盛り込んでいきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用前に本人のもとへ訪問し、本人の状態を確認しながら、ご家族へ利用契約書や重要事項説明書の大まかな説明を行い、利用開始にあたり不安や疑問等を聞き出すことが出来ている。本契約時には再確認と説明を十分に行い利用開始に理解と納得を頂いている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議などで意見交換ができる場を設けたり、意見箱や外部機関もある事も伝え、意見しやすい雰囲気作りを心掛けている。また、家族の面会の際は、コミュニケーションを図り、悩みや困りごとなど聞き出せるよう努めている。	平均して週に1~2回、利用者家族の面会がある。面会時に家族とのコミュニケーションを図り、意見や要望について確認している。コロナ禍において、面会制限を実施したが、可能な範囲内で短期間に留めた。又、玄関先での面会や、LINEを活用した利用者と家族のコミュニケーションを工夫している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行われる職員ミーティングや、管理者専用のレターケースに意見書を投稿できるような環境を整えている。また、SNS等を利用した個別での相談窓口も設け、誰でも気軽に発言できるようにしている。	事業所の代表者は、定期的に事業所を訪問し、職員とのコミュニケーションを図っている。事業所周圍の雑草の草刈りを職員が提案した際に、草刈り機を購入し、職員のモチベーションを高め、環境整備を行っている。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に数回プリセプターや面談を行い、介護職一人ひとりの自己の課題を抽出し、反省と解決方法を一緒に見出している。また社内外研修へも参加してもらい知識研鑽に努め、資格取得等のサポートも行っている。	有休が取得しやすい環境が整備され、職員の希望を反映したシフト表の作成を管理者は工夫している。職員との面談が、定期的の実施され、個々の目標を明確化、実践、評価、改善のPDCAサイクルの好循環に繋がっている。目標に沿った、研修計画・資格取得について全面的にサポートしている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、社内教育担当者や外部講師を招き定期勉強会を行い、専門的知識と技術の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	これまではグループホーム連絡会や地域会議、県外の同業者との交流、養成校や介護福祉士会などの職能団体を通じて情報交換を行い、サービスの質の向上に向け積極的に活動参加していたが、今年度はコロナウィルスの影響により参加できていない。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所される際、本人がどのように過ごしたいか、聴取し、不安や要望に耳を傾け本人の意向に寄り添い安心して生活が送れるように努めている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所の際、本人にどう過ごしてほしいか、家族の要望や不安点を聴取し、本人、家族共に安心して施設生活を送る事が出来るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始前に面談を行い、今何が必要な支援なのかを判断し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の生活歴、性格、力量に応じ得意分野を引き伸ばしていき、また不得意な事は介護職や他者と一緒に互いに助け合いながら生活できるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	各家族と密に連携を図れるよう努め、承諾を得ている家族とはSNSを通じ日頃の利用者の様子を伝える事で、離れて暮らしていても身近に感じて頂けるよう、家族間の関係を良好に保てていると考える。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一部の利用者において、これまで交流のあった方達とのふれあいや、馴染みのある環境へ訪れる事で、認知症罹患以前の生活に近づけられるよう努めている。	コロナ禍において、友人・知人との交流機会を設けることに制限があるため、ドライブを兼ねた、なじみの場所・それぞれの訪問したい場所へ外出した。現在、利用者のお孫さんの結婚式への参加を計画している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の度合いにより、他者との関わりが上手く回れない方に対し、介護職が介入する事でコミュニケーションが円滑に進むよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後も必要に応じてご家族様や、関係機関との情報交換、支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成や修正の際は、本人の意向を聞き取りし、把握に努めている。困難な場合は、ご家族などから情報収集し、本人の生活に合った支援になるよう検討している。	ケアプランの作成について、センター方式のアセスメントを実施している。一人ひとりの利用者にもマンツーマンで職員が対応し、その思いや意向を把握するための工夫を行っている。「お一人様ツアー」という企画があり、それぞれの行きたい場所・やりたいことをかなえる取り組みを行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からの情報、また、これまで関わりのあった他施設からの情報を収集し職員全体で把握し、努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	これまでの生活に近づけられるよう一人ひとりの生活因子を理解し、心身の状態に応じその人らしく生活を送れるよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ケースカンファレンスを行い、心身の変化などを話し合い、その時の状況に応じた個別ケアが実践できるよう努めている。	センター方式のアセスメントについて、ケアマネジャーとの勉強会を重ね、職員間で共有している。その過程で、チーム間での情報共有・話し合いの意義が確認された。介護目標を達成するために、日常の介護が実践され、その結果をモニタリングし、介護計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきを個別日誌に記録し、申し送りノートやSNSを利用し、職員間で情報共有を行い支援を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の状況も汲み取り、出来る限りニーズに応えられる様、取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	これまでは地域の祭りや町主催の行事に参加したり、イベントへ外出し、地域との交流が途絶えないよう支援していたが、今年度はコロナウィルスの影響により社会参加ができていない。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人が信頼する医師や病院を選択して頂いている。また要望に応じては推奨する医療サービスの提案も行っている。	利用者は基本的に入居前からのかかりつけ医の受診をしているが、2名の利用者は入居後に利用者の状態及び家族の負担軽減の為、訪問診療に切り替えている。利用者の状態報告は事業所から医療機関宛てに文書や電話にて直接連携を取っており、年1回及び必要時には利用者の健康状態を確認している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤看護師と共に、日々の情報共有と毎日の変化を報告し合える環境作りに努めている。訪問診療を契約しているご利用者の緊急時には24時間体制で連絡が取り合える体制である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療連携室を中心に情報交換や情報共有を行い、連携を取っている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	グループホームで可能なケアやサービスについて入居前に説明を行っている。入居後もご家族、本人とどのように終末を迎えたいかを話し合い、希望に添えるようにしている。	事業所は重度化や終末期のケアを行なう方針で、毎年職員の研修を実施している。現在は終末期ケアの利用者はいないが、グループホームで最期を迎えたいと希望している利用者を受け入れ、入居前に家族の意向も確認しながら支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当の初期対応が出来るよう、法人内でも外部講師を招き、勉強会を行っている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自主防災訓練、沖縄県全体防災訓練を実施し、職員間で非常食や水など必需品等の再確認を行っている。	事業所の自主訓練と町主催の避難訓練を実施しているが、夜間想定避難訓練の実施はできていない。設備は整備され、備蓄は4日分を確保し、年に1回はローリングして備蓄の確認をしている。立地環境から、大雨の被害の恐れもある為、来年度は専門講師を招いての研修を計画している。	夜間想定避難訓練を実施し、災害時の具体的な避難策を検討することでいざという時に慌てず確実な避難誘導ができるように備えておくことが望まれる。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合った声掛けを行い、自尊心を傷つけない対応を行っている。利用者中心の生活が送れるよう心掛けている。	利用者及び家族には入居時に個人情報使用同意書を交わし、玄関先に個人情報保護方針と利用目的が掲示されている。職員の研修ではスピーチロック等について学び、日頃のケアの中でも職員の言葉で気になる時は職員同士で声を掛け合い、その時の利用者の反応を伝え、利用者の尊厳を守っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中から、今何がしたいか等の思いや希望が叶えられるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの意思を尊重し、本人のペースに合わせ、その人らしい生活に近づけられるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出だけではなく、起床時から整容セットを洗面台に用意し、自由に使用して頂き、メイクなどの支援も行っている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物の提供や調理が得意な利用者と一緒に準備をしている。	3食事業所で調理し、利用者は野菜の下ごしらえや食事前のお茶の準備等に参加、職員は利用者と同じ食事を一緒に摂っている。食材の買い出しには利用者も一緒に行き、利用者の要望で献立を決める事もある。コロナ禍で外食が困難な状況でも、寿司が食べたいとの要望に応え事業所で寿司を提供する等食事を楽しむ工夫をしている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量の把握に努め、健康管理を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。習慣化され、介護職の声掛けなくとも自ら実施できるご利用者も増えた。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	基本的にこれまで送ってきた生活同様に、排泄障がいがあっても、支援を加える事で、トイレでの排泄行為が行えている。	現在、ほとんどの利用者が日中はトイレで排泄ができています。1名の利用者は普段はおむつ使用だが、調子が良い時はトイレで排泄できる。入居時は退院後等で機能低下している状態だが、入居後に生活の中で筋力をつけることを意識してケアすることで、下肢筋力の向上になりトイレで排泄できる事にもつながっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表や利用者本人からの自己申告を基に、個々の排便リズムを把握し飲食や運動に工夫を凝らして、予防に取り組んでいる。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々に合わせて入浴時間は定時で設けていない。だが状況に応じ、入浴促しの声掛けは行っている。	入浴日や時間は決めておらず、毎日入浴する利用者もいれば、入浴を好まない利用者もいる。入浴を好まない利用者に対しては運動を多くしてもらい汗をかく事で入浴したくなる状況を作ったり、声かけのタイミングや言葉・職員を変える、仲の良い利用者が入浴していることを知らせる等、利用者の意向に沿った入浴支援を実践している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝つきの悪い日が予想されるなど、就寝前に温かい飲み物を提供したり、マッサージしたり、眠りやすい環境を整えてから、就寝に就いていただいている。		
47	(20)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報について、全職員がいつでも確認が出来るよう書類を整えている。だが薬に対し、全体的に職員が把握できてはいない。また、状態変化等があれば主治医に報告し調整して頂いている。	服薬マニュアルがあり、昨年は服薬のフローチャートも作成した。実際にフローチャートを活用することで職員からは改善点の意見があり、現在もフローチャートの見直しを行ない、誤薬に関する事故やヒヤリハットは発生していない。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者により、それぞれの役割を持って頂いている。また気分転換の支援においては、ほぼ毎日行われている。		
49	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期に設けていないが、当施設でのサービス内容の中に「マンツーマン支援」があり、本人の希望に合わせ一日を通して支援活動を行っている。	コロナ禍でも人混みを避けてドライブで遠方の桜見やひまわり畑に出かけたり、近くの海辺でおやつを食べたりと日常的に外出ができるように工夫している。また、「おひとりさまツアー」と名付けた職員と利用者のマンツーマンで個別の外出支援も実践している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者自身が持参しているお金もあるが、ほとんどの利用者が施設に預けている。「利用者のお小遣い」をそれぞれ小口袋に入れ外出時に利用者それぞれに持って頂き買物等を行っている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している利用者は自由にやり取りを行っているが、持っていない利用者は介護職が「いつでも電話できますよ」と声掛けを行っている。		
52	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースや各居室において、季節の創作や飾りつけを行い、ご利用者や家族に楽しんで頂いている。室温、湿度等もその都度調整し、過ごしやすい環境になるよう整えている。	事業所の中心はフロア兼食堂で、ソファを4か所に点在して設置、テレビも2か所に設置して利用者それぞれが好きな場所で過ごせるようにしている。フロアには季節に合わせた手作りの作品が掲示され、玄関やベランダは利用者が自由に出入りできるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにて複数のソファを設置し、本人が好きな所でくつろげるよう努めている。		
54	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みのあるモノを持ち込み、居心地よく過ごせるようにしている。配置等も本人や家族に行って頂いている。	各居室にはベッド・キャビネット・エアコン・湿温計が備え付けられており、利用者に合わせて電動ベッドや固定ベッドが選べる。利用者は使い慣れた洋服掛けや手作りの作品、家族や本人の写真を飾り、利用者に合わせた家具の配置になっており、居心地よく過ごせるような居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全とまでは言えない箇所がいくつかあり、ハード面での課題の一つである。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	これまでも、運営推進会議への参加率が低かったが更に今般のコロナウィルス感染の影響により、運営推進会議の開催が困難となった為、今後は、感染状況を見ながら、気軽に参加ができる運営推進会議の開催案が必要である。	運営推進会議への参加率を上げ、家族や地域との連携を強化させていく。	①「会議」という名目だけでは固く参加しにくいイメージがある為、「イベント」を設けその旨を周知し参加率を上げる。 ② 2ヶ月に1度配布される「とことんだより」に直近の運営状況報告を載せ、周知する。	12ヶ月
2	35	今般のコロナウィルス感染の影響により、消防の協力の下、昼夜それぞれの避難訓練を行う事が出来ていない。災害はいつ引き起こされるか不明な為、適切な対策が取れるよう、できるだけ早めに専門家の下避難訓練を行う必要がある。	防災の専門家でもある消防の協力の下、昼夜それぞれの避難訓練を行う。	① コロナウィルス感染状況を見ながら、消防署員による災害講習及び技術講習を行う日程調整を行い実施に繋げる。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。